

産業遺産の活用と課題

はじめに

産業遺産とは、日本の近代化に重要な役割を担った炭鉱や製鉄所といった産業の古い構造物などの総称である。近年、これらの遺産を活用した“産業観光”（注）が人々の価値観やニーズの多様化に伴い新しい旅のあり方の1つとして注目を集めつつある。

このような状況の下、経済産業省は2007年2月、日本の近代化に貢献した産業遺産を文化財とは別に独自の「近代化産業遺産」として認定し、これらを観光拠点とするなど地域活性化に積極的に活用していく方針を固めた。そこで、本稿ではこの経済産業省の動きを中心に産業遺産の活用と課題についてまとめてみた。

（注）産業観光とは、「歴史的・文化的価値のある産業文化財（古い機械器具、工場遺構などのいわゆる産業遺産）、生産現場（工場、工房等）及び産業製品を観光資源とし、それらを通じてものづくりの心に触れるとともに人的交流を促進する観光活動をいう」（2001年「全国産業観光サミット in 愛知・名古屋」）と定義されている。

1. 経済産業省による産業遺産活用の概要

もともと産業遺産は見た目がとくに美しいわけでもなく、このため地元住民がその価値を十分に理解していないケースが少なくない。そこで経済産業省は、日本の産業発展に寄与した施設や製品などを評価する専門家組織「産業遺産活用委員会」を設け、2007年4月から全国各地に存在する優れた価値を有する産業遺産を観光資源などとして認知度を高め、地域の活性化に役立てていく活動を開始した。

（1）遺産の選定

経済産業省は対象となる産業遺産を「幕末から戦前の工場跡、炭鉱跡等の産業遺産であり、日本の産業の発展に貢献したもの」と定め、2007年4月24日から同5月31日までの間、各地の自治体などを対象に候補地を公募し、同11月30日にその応募案件をもとに33の近代化産業遺産ストーリー（認定遺産件数575件）をまとめた。

経済産業省における当事業の担当部署は経済産業政策局地域経済産業グループであり、産業遺産を地域経済の活性化に役立てることを当事業の目標としている。遺産の選定にあたっては各施設を個別に認定していくのではなく、点在する遺産を広域的にとらえる「点から面へ」の展開に

主眼が置かれている。既に、文化庁も重要文化財として旧三池炭鉱の宮原坑や万田坑といった産業遺産を認定しているが、それは個々の施設の価値が重視されたものである。これに対し経済産業省は近代化産業遺産の認定にあたって、個々の工場や炭鉱などの産業史上の価値を判断するだけでは地域活性化に必ずしも効果的ではないと考え、まず産業遺産を技術や産業といったテーマごとに整理したうえで、それらに共通する複数の産業遺産を結びつけその相乗効果によってより価値の高いものに仕立てることができるよう、当該地域の産業発展の歴史を如実に物語るようなストーリー性の高いものを重視している。

こうして国内500以上の個別遺産をテーマごとにまとめた33の近代化産業遺産ストーリーは、複数の拠点を結びつけほぼ全国をカバーするものとなっており、来年度も第二次公募を行う予定である（図表1）。

図表1 経済産業省から示された近代化産業遺産ストーリー

番号	タイトル
①	『近代技術導入事始め』海防を目的とした近代黎明期の技術導入の歩みを物語る近代化産業遺産群
②	欧米諸国に比肩する近代造船業成長の歩みを物語る近代化産業遺産群
3	鉄鋼の国産化に向けた近代製鉄業発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
4	建造物の近代化に貢献した赤煉瓦生産などの歩みを物語る近代化産業遺産群
⑤	外貨獲得と近代日本の国際化に貢献した観光産業草創期の歩みを物語る近代化産業遺産群
6	我が国の近代化を支えた北海道産炭地域の歩みを物語る近代化産業遺産群
7	北海道における近代農業、食品加工業などの発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
8	洋紙の国内自給を目指し北海道へと展開した製紙業の歩みを物語る近代化産業遺産群
9	有数の金属供給源として近代化に貢献した東北地方の鉱業の歩みを物語る近代化産業遺産群
10	京浜工業地帯の重工業化と地域の経済発展を支えた常磐地域の鉱工業の歩みを物語る近代化産業遺産群
11	新潟など関東甲信越地域で始まった我が国近代石油産業の歩みを物語る近代化産業遺産群
12	銅輸出などによる近代化への貢献と公害対策への取組みに見る足尾銅山の歩みを物語る近代化産業遺産群
13	『上州から信州そして全国へ』近代製糸業発展の歩みを物語る富岡製糸場などの近代化産業遺産群
14	『貿易立国の原点』横浜港発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
15	優れた生産体制等により支えられる両毛地域の絹織物業の歩みを物語る近代化産業遺産群
16	激しい産地間競争等を通じ近代産業へと発展した利根川流域等の醸造業の歩みを物語る近代化産業遺産群
17	『重工業化のフロントランナー』京浜工業地帯発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
18	官民の努力により結実した関東甲信越地域などにおけるワイン製造業の歩みを物語る近代化産業遺産群
19	近代技術による増産を達成し我が国近代化に貢献した佐渡、鯛生両鉱山の歩みを物語る近代化産業遺産群
20	近畿の経済や中部のモノづくりを支えた中部山岳地域の電源開発の歩みを物語る近代化産業遺産群
21	我が国モノづくりの中核を担い続ける中部地域の繊維工業・機械工業の歩みを物語る近代化産業遺産群
22	『羽二重から人絹へ』新たなニーズに挑み続けた福井県などの織物業の歩みを物語る近代化産業遺産群
23	輸出製品開発や国内需要拡大による中部、近畿、山陰の窯業近代化の歩みを物語る近代化産業遺産群
24	京都における産業の近代化の歩みを物語る琵琶湖疏水などの近代化産業遺産群
25	我が国鉱業近代化のモデルとなった生野鉱山などにおける鉱業の歩みを物語る近代化産業遺産群
26	『軽工業から重工業へ・河岸部から臨海部へ』阪神工業地帯発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
27	商業貿易港として発展し続ける神戸港の歩みを物語る近代化産業遺産群
28	日本酒製造業の近代化を牽引した灘・伏見等の醸造業の歩みを物語る近代化産業遺産群
29	『東洋のマンチェスター』大阪と西日本各地における綿産業発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
30	地域と様々な関わりを持ちながら我が国の鋼生産を支えた瀬戸内の銅山の歩みを物語る近代化産業遺産群
⑩	産炭地域の特性に応じた近代技術の導入など九州・山口の石炭産業発展の歩みを物語る近代化産業遺産群
32	九州南部における産業創出とこれを支えた電源開発・物資輸送の歩みを物語る近代化産業遺産群
33	近代の沖縄経済に貢献した『2つの黒いダイヤ』製糖、石炭両産業の歩みを物語る近代化産業遺産群

資料：経済産業省

(2) 長崎県内の対象産業遺産

経済産業省から発表された前述の近代化産業遺産群リストのうち、長崎県に関連するものは図表1の番号①、②、⑤、⑩の4件であり、以下それぞれについて具体的に紹介しておこう。

①の「『近代技術導入事始め』海防を目的とした近代黎明期の技術導入の歩みを物語る近代化産業遺産群」では全国7県にまたがって関連遺産が認定されている。そのうち長崎県については、海運船舶や軍艦修繕のため幕末に造られた「小菅修船場跡」と、江戸幕府が軍艦の修理を行うために設立した長崎鋸鉄所を前身とする三菱重工業長崎造船所の歴史を展示している「三菱重工業(株)長崎造船所史料館の所蔵物」、「ハウステンボスの船舶」(長崎海軍伝習所の練習艦としてオランダから江戸幕府へ献上された日本初の蒸気帆船“観光丸(復元:ハウステンボス観光船)”)の3件が『長崎の幕末造船関連遺産』として選ばれている。

近代化産業遺産ストーリー番号①

【『近代技術導入事始め』海防を目的とした近代黎明期の技術導入の歩みを物語る近代化産業遺産群】

都道府県	市区町村	名称	(不動産)	(動産)			
茨城県	ひたちなか市	水戸藩による事業の関連遺産	那珂湊反射炉跡及び反射炉模型 耐火煉瓦焼成用の登り窯(復元)	-			
東京都	中央区		石川島資料館の所蔵物	石川島造船所に関する展示(旭日丸模型等)			
	品川区	幕末の造船関連遺産	船の科学館の所蔵物	幕末船舶の模型(昇平丸、鳳凰丸、君沢型スクーター)			
静岡県	伊豆の国市	江川代官所による事業の関連遺産	韭山反射炉	-			
	沼津市	幕末の戸田村における事業の関連遺産	沼津市戸田造船郷土資料博物館の所蔵物	ヘダ号設計図 大工道具 ディアナ号模型 ヘダ号模型			
山口県	萩市	長州藩による事業の関連遺産	萩反射炉	-			
			郡司鑄造所跡	-			
			恵美須ヶ鼻造船所跡	-			
佐賀県	佐賀市	佐賀藩による事業の関連遺産	築地反射炉跡	-			
			徴古館の所蔵物	蒸気車雛形・蒸気船雛形(外輪・スクリュー) 湿板カメラ(レンズ付・レンズなし) 鍋島直正肖像写真他古写真 真空ポンプ他精煉方使用器具類 内外収集標本箱(仮称) 「鍋島直正公使節船乗込図」他絵巻物類 「長崎海軍伝習所之図」他絵巻物類 長崎警備関係古地図絵図類 長崎警備関係古地図絵図類 藩政時代関係古文書類			
			佐賀城本丸歴史館の所蔵物	砲術備要 舶来大砲図 浦触写 大砲鑄造絵巻 多布施公儀石火矢鑄立所跡出土遺物 29ドイムモルチール砲(オランダ製) 29ドイムモルチール砲(冠軍)			
			長崎県	長崎市	長崎の幕末造船関連遺産	小菅修船場跡	-
						三菱重工業(株)長崎造船所史料館の所蔵物	NSBM社製の堅削盤 泳気鐘
				佐世保市		ハウステンボスの船舶	観光丸(復元:ハウステンボス観光船)

鹿児島県	鹿児島市	薩摩藩による事業 の関連遺産 (集成館事業)	旧集成館	-
			旧集成館機械工場 (現尚古集成館)	-
			尚古集成館の所蔵物	NSBM社製の形削盤
				銀板写真 (島津斉彬像)
	始良郡 加治木町		旧鹿児島紡績所技師館	-
			森山家住宅旧作業場 (移築：旧集成館 物工場)	-

資料：経済産業省

②の「欧米諸国に比肩する近代造船業成長の歩みを物語る近代化産業遺産群」では、①で選出された「小菅修船場跡」と「三菱重工業(株)長崎造船所史料館の所蔵物」とともに、「三菱重工業(株)長崎造船所史料館」の建物そのものが『長崎市の造船関連遺産』として、また明治時代より軍港として発展した佐世保市に現存する旧海軍工廠時代の旧館事務所や250トンクレーン



小菅修船場跡 (ソロバンドック)

近代化産業遺産ストーリー番号②

【欧米諸国に比肩する近代造船業成長の歩みを物語る近代化産業遺産群】

都道府県	市区町村	名称	(不動産)	(動産)	
北海道	函館市	函館市の造船関連遺産	第1号 乾ドック	-	
神奈川県	横須賀市	旧横須賀製鉄所関連遺産	ヴェルニー記念館の所蔵物	スチームハンマー (旧横須賀製鉄所設置、1865年オランダ製、3トン門形) スチームハンマー (旧横須賀製鉄所設置、1865年オランダ製、0.5トン片持ち形)	
			横須賀市浦賀の造船関連遺産	旧住友重機械工業浦賀艦船工場 第1号ドック 同 ポンプ施設 ドックサイドクレーン	- - -
		横浜市西区	横浜市の造船関連遺産	日本丸メモリアルパーク (旧横浜船渠第1号ドック) ドックヤードガーデン (旧横浜船渠第2号ドック)	- -
	大阪府	大阪市住之江区	大阪市の造船関連遺産	名村造船所跡地	-
	兵庫県	神戸市中央区	神戸市の造船関連遺産	川崎造船神戸工場第1号ドック 8時間労働発祥之碑	- -
神戸市灘区		神戸大学附属図書館の所蔵物		松方社長対職工側委員会見録	
広島県	呉市	旧呉海軍工廠関連遺産	呉海軍工廠 造船船渠大屋根 (株アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド呉工場内)	-	
			呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)の所蔵物	戦艦「大和」設計図面 10分の1戦艦「大和」 巡洋戦艦「金剛」搭載のヤーロー式ボイラー 戦艦「大和」型150センチ探照灯反射鏡	

長崎県	長崎市	長崎市の造船関連遺産	小菅修船場跡	-
			三菱重工業株長崎造船所史料館(旧木型場)	-
			三菱重工業株長崎造船所史料館の所蔵物	国産陸用蒸気タービン 鋳鉄柱(明治初期の工場支柱) その他機械、資料、模型等
	佐世保市	旧佐世保海軍工廠関連遺産	第3船渠(旧第4船渠)	-
			第4船渠(旧第7船渠)	-
			第5船渠(旧第1船渠)	-
			第6船渠(旧第3船渠)	-
			250t植型クレーン	-
		旧館艦艇営業部・船舶営業部	-	

資料：経済産業省

などが『旧佐世保海軍工廠関連遺産』として他の5県の類似遺産と並んで選出されている。

⑤の「外貨獲得と近代日本の国際化に貢献した観光草創期の歩みを物語る近代化産業遺産群」では、日本初の国立公園“雲仙”に1935年にオープンし、1979年に近代日本の名建築に選ばれ2003年には文化庁の有形文化財にも指定された「雲仙観光ホテル」と「雲仙ゴルフ場」、「旧小浜鉄道トンネル群」が『雲仙観光ホテルと雲仙観光関連遺産』としてリストアップされた。

近代化産業遺産ストーリー番号⑤

【外貨獲得と近代日本の国際化に貢献した観光草創期の歩みを物語る近代化産業遺産群】

都道府県	市区町村	名称	(不動産)	(動産)
栃木県	日光市	日光金谷ホテルと日光観光関連遺産	日光金谷ホテル(本館・新館)	-
			日光金谷ホテル(別館)	-
			カナヤ・カッテージ・イン	-
			旧大名ホテル(現日光市役所日光総合支所)	-
			JR日光駅	-
神奈川県	横浜市 中区	ホテルニューグランド関連遺産	ホテルニューグランド本館	-
長野県	足柄下郡 箱根町・ 小田原市	富士屋ホテルと箱根観光関連遺産	富士屋ホテル(本館)	-
			富士屋ホテル(西洋館)	-
			富士屋ホテル(食堂棟)	-
			富士屋ホテル(花御殿)	-
			富士屋ホテル 別館(菊華荘)	-
			富士屋ホテル カスケードルーム	-
			富士屋ホテル 厨房	-
			国道1号:函嶺洞門	-
			国道1号:旭橋	-
			国道1号:千歳橋	-
			箱根登山鉄道:早川橋梁(通称「出山の鉄橋」)	-
			箱根登山鉄道:箱根湯本~強羅間隧道11ヶ所	-
			箱根登山鉄道:箱根湯本~強羅間橋梁18ヶ所	-
箱根登山鉄道:小田原~箱根湯本間橋梁13ヶ所	-			
長野県	下高井郡 山ノ内町	志賀高原ホテル関連遺産	旧志賀高原ホテル(志賀高原歴史記念館)	-
群馬県	安中市	万平ホテルと軽井沢観光関連遺産	万平ホテルアルプス館(本館)	-
			万平ホテル松館	-
			旧三笠ホテル	-
			(旧)軽井沢駅舎記念館	-
奈良県	奈良市	奈良ホテルと奈良観光関連遺産	碓氷峠鉄道施設群	-
			奈良ホテル	-
兵庫県	神戸市 灘区	六甲山ホテルと六甲観光関連遺産	旧JR奈良駅舎	-
			六甲山ホテル	-
			六甲ケーブル山上駅	-
			神戸ゴルフ倶楽部、クラブハウス	-
愛知県	西宮市	甲子園ホテル関連遺産	旧小寺家住宅別荘(現甲南女子学園六甲山学舎)	-
			旧甲子園ホテル(現武庫川女子大学甲子園会館)	-
愛知県	蒲郡市	蒲郡プリンスホテル関連遺産	蒲郡プリンスホテル	-

長崎県	雲仙市	雲仙観光ホテルと雲仙観光関連遺産	雲仙観光ホテル	—
			雲仙ゴルフ場	—
			旧小濱鉄道トンネル群	—
静岡県	伊東市	川奈ホテルと川奈観光関連遺産	川奈ホテル	—
			川奈ホテルゴルフコース：大島コース	—
			川奈ホテルゴルフコース：富士コース	—
秋田県	鹿角郡小坂町	十和田ホテル関連遺産	十和田ホテル	—
北海道	札幌市中央区	豊平館関連遺産	豊平館（移築）	—
	小樽市	越中屋ホテル関連遺産	旧越中屋ホテル（現小樽グランドホテルクラシック）	—
青森県	むつ市	大湊ホテル関連遺産	旧大湊ホテル（現鈴木誠作記念館）	—
愛知県	犬山市	帝国ホテル関連遺産	帝国ホテル中央玄関（ライト館）（移築）	—
			博物館明治村の所蔵物	近代のホテルで使用された食器類 近代のホテルで使用された家具類
滋賀県	大津市	琵琶湖ホテル関連遺産	旧琵琶湖ホテル（現琵琶湖大津館）	—

資料：経済産業省

③①の「産炭地域の特性に応じた近代技術の導入など九州・山口の石炭産業発展の歩みを物語る近代化産業遺産群」では、県内旧産炭地のなかから日本初の洋式立坑である「北溪井坑跡^{ほつけいせいこう}」や「長崎市高島石炭資料館の所蔵物」、軍艦島の名で知られる「端島^{はしま}」が『高島炭鉱関連遺産』として選出されている。

近代化産業遺産ストーリー番号③①

【産炭地域の特性に応じた近代技術の導入など九州・山口の石炭産業発展の歩みを物語る近代化産業遺産群】

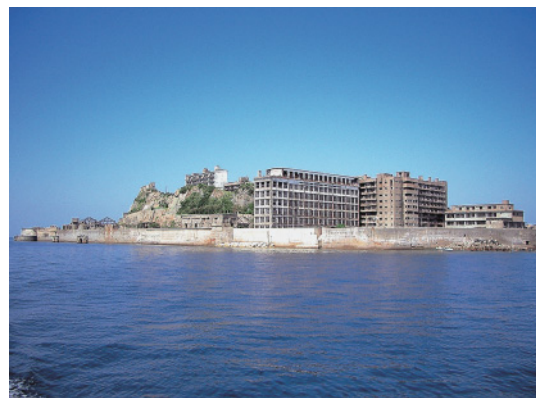
都道府県	市区町村	名称	(不動産)	(動産)
長崎県	長崎市	高島炭鉱関連遺産	北溪井坑跡	—
			長崎市高島石炭資料館の所蔵物	機具・道具、写真、模型等
			端島（軍艦島）	—
福岡県	北九州市若松区	筑豊炭田からの石炭輸送・貿易関連遺産	旧古河鉱業若松支店	—
			北九州市立若松市民会館の所蔵物	川ひらた（復元）
	北九州市八幡東区		茶屋町橋梁	—
			北九州市門司区	旧大阪商船ビル
	旧門司税関			—
	旧門司三井倶楽部			—
	JR門司港駅			—
	北九州市戸畑区		九州鉄道記念館（レトロパーク門司港）	—
			旧松本家住宅	—
	北九州市八幡西区		福岡県立折尾高校の所蔵物	川ひらた
	北九州市八幡西区		堀川運河	—
	中間市遠賀郡水巻町		日田彦山線宝珠山橋梁	—
				朝倉郡東峰村
	田川郡赤村		芦屋町歴史民俗資料館の所蔵物	
	遠賀郡芦屋町		田川市	筑豊炭田関連遺産
旧三井田川鉱業所伊田堅坑 第一煙突		—		
旧三井田川鉱業所伊田堅坑 第二煙突		—		
田川市石炭・歴史博物館 炭鉱住宅（復元）		—		
田川市石炭・歴史博物館の所蔵物		炭坑資料 炭鉱機械類		

福岡県	直方市	筑豊炭田関連遺産	旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所 (直方市石炭記念館本館)	-
			旧奥野医院 (直方市美術館)	-
			旧十七銀行直方支店 (直方市美術館別館 (アートスペース谷尾))	-
			旧堀三太郎邸跡 (直方歳時館)	-
	飯塚市		旧伊藤伝右衛門邸	-
			巻き上げ台座	-
			嘉穂劇場	-
	田川郡 福智町		九州日立マクセル赤煉瓦記念館 (旧三菱方城炭礦坑務工作室)	-
	築上郡 築上町			旧蔵内家住宅
	粕屋郡 志免町		志免鉱業所関連遺産	志免鉱業所堅坑槽
		斜坑 (第八坑連卸坑口)		-
	産業遺産収蔵庫の所蔵物	第八坑扇風機坑口プロペラ / その他出土遺物		
	旧勝田線跡 (志免鉄道記念公園、志免鉄道公園、上亀山駅公園、志免緑道公園)	-		
	大牟田市	三池炭鉱関連遺産	宮原坑跡	-
			旧三池炭鉱職員社宅 (白坑社宅)	-
			宮浦坑跡	-
			三池炭鉱専用鉄道電気機関車 (保存)	三池炭鉱専用鉄道電気機関車
			旧三池集治監外堀・石垣	-
			三井港倶楽部	-
			三井港倶楽部の所蔵物	関連資料
三池港および三池港開門・ドック施設			-	
大金剛丸			-	
旧長崎税関三池支署			-	
三川坑跡			-	
三井化学㈱J工場及び労務館			-	
旧三川電鉄変電所			-	
万田坑跡			-	
熊本県	荒尾市	三池炭鉱からの石炭輸送・貿易関連遺産	三角旧港 (三角西港) 施設	-
	宇城市			
佐賀県	唐津市	佐賀県の炭鉱関連遺産	旧高取家住宅	-
			旧三菱合資会社唐津支店本館	-
			旧杵島炭鉱大鶴鉱業所第二坑口	-
山口県	宇部市	宇部炭鉱関連遺産	沖ノ山電車堅坑石垣	-
			常盤用水・常盤工業用水の放水、受水関連施設	-
			旧宇部銀行本店	-
			石炭記念館の所蔵物	炭鉱資料
			宇部市渡辺翁記念会館	-
			沖ノ山用水の旧桃山一号配水池監視廊入り口と桃山配水計量室	-

資料：経済産業省



北溪井坑跡



端島 (軍艦島)

2. 九州・山口地域における産業遺産の活用に向けた取組み

経済産業省の取組みにもあるように、「地域資源を活かす」ということにおいて産業遺産は地域活性化の有効なツールの1つである。そして、一般的に最も期待される活用法は観光資源としての活用であろう。

(1) 世界遺産への登録

産業遺産が世界遺産に登録されることになると、遺産の長期的保護と交流人口の拡大の両面にわたり大きな効果が期待されるところであり、この点は2007年6月に国内で初めて産業遺産として世界遺産に登録された島根県太田市の石見銀山遺跡群の例をみても明らかである。

そこで、九州地方知事会では、2006年10月、経済産業省の動きに先んじて九州・山口に残る石炭産業や鉄鋼業などの産業遺産の保存・活用に一体となって取り組むために「九州近代化産業遺産研究委員会」を設置し、同年11月には遺産リスト「九州・山口の近代化産業遺産群」を作成し、これを世界遺産国内推薦候補の「暫定リスト」として文化庁に申請した。現状、なお“継続審査”の扱いとなっていることから、同研究委員会では、申請名称を「九州・山口の産業遺産群－非西洋世界における近代化の先駆け」とし、その構成遺産に山口県萩市の「松下村塾」など9件を新たに追加したもの（図表2）を2007年12月21日に文化庁へ再提出している。

九州・山口地域は、江戸時代の鎖国期にあっても唯一海外に開かれていた長崎の出島を通じて海外先進技術がいち早く伝播し、わが国近代化の原動力となった製鉄・造船・石炭など基幹産業の発祥地といわれている。その産業遺産群は産業・経済面で高度に発展した今日のわが国の原点として特別な価値が見いだせるものであり、世界遺産の要件にも十分に適合しうるものと思われる。

(2) 産業観光への活用

産業遺産の観光への活用の仕方としては、前述のように産業観光における活用が考えられる。産業観光は体験型観光の一形態として、近年、訪日外国人客の観光メニューや国内の修学旅行などにも盛んに採り入れられるようになってきた。このような産業観光には次の2つの効果が期待されている。1つは遺産の維持・保存のために必要な費用と労力を観光事業による収益で補い、地域の文化と歴史を未来へ継承させるという遺産の持続的保存への期待である。もう1つは現代の産業を観光資源として活用し、地域産業のPRを行うことでその地域の活性化につなげていこうという期待である。つまり、これら産業遺産などの活用を通じ新しい観光事業が地域に根付き発展していけば、産業遺産保存面でプラスの効果がもたらされるだけでなく、域内消費の拡大や雇用の促進といった地域への経済波及効果も十分に期待できるということである。

そうした考え方に立って、官民で九州の観光振興に取り組む九州観光推進機構では、冊子「うんちくの旅」シリーズのなかで、“近代産業遺構”、“九州の近代化産業遺産群”など産業遺産を活用した新たな観光ルートを紹介している。

図表2 九州・山口の近代化産業遺産群（07年 文化庁再提出分）

ストーリー	分類	都道府県	市町村	名称	概要
①自力による近代化	鋳砲	鹿児島県	鹿児島市	旧集成館	アヘン戦争に危機感を持った薩摩藩が、造砲、造船、製鉄や紡績、ガラス、印刷などの富国強兵・殖産興業政策を行った集成館事業の工場群跡。
		山口県	萩市	萩反射炉	欧米列強の圧力に危機感を持った長州藩造に向けた自力の試行錯誤を行ったことを示す反射炉。
	造船	山口県	萩市	恵美須ヶ鼻造船所跡	欧米列強の艦船に危機感を持った長州藩が、対外対抗のために、洋式艦船「丙辰丸」を建造した造船所跡。今も波止場の石垣をそのまま残す。
	人物	山口県	萩市	松下村塾	吉田松陰が対外対抗のため幕藩体制改革を説いた教育施設。官営長崎造船所初代所長、渡辺嵩蔵など、日本近代化の原動力となった人材を輩出した。
②積極的な技術導入	契機	鹿児島県	鹿児島市	新波止砲台跡	薩摩藩が自力による近代化から、西欧列強からの積極的な技術導入に転ずる契機となった薩英戦争時の主力砲台跡。
		山口県	下関市	前田砲台跡	長州藩において尊皇攘夷から開国を主張する勢力が台頭する契機となった下関四国艦隊砲撃事件の砲台跡。
	造船	鹿児島県	鹿児島市	旧集成館機械工場	薩摩藩がオランダの機械を導入して建設した洋式機械工場。長崎製鉄所から機械が送られ、技術者が招聘された。
		長崎県	長崎市	小菅修船場跡	薩摩藩とグラバーによって修船・造船を目的に創設され、日本最初の洋式船架を備える。曳揚小屋の外壁は通常より薄手の「こんやく煉瓦」が使用され、曳揚機械はグラバーがイギリスから購入した。
	人物	鹿児島県	鹿児島市	旧鹿児島紡績所技師館	イギリスから機械を導入して操業した日本最初の機械紡績工場である鹿児島紡績所で指導に当たったイギリス人技術者のために建設された住居。
		長崎県	長崎市	旧グラバー住宅	西南雄藩とともに、石炭・造船など、当時の日本の主要産業の近代化に貢献したイギリス商人トーマス・グラバーの住宅。
③国内外の石炭需要への対応	高島炭田	長崎県	長崎市	北溪井坑跡	開国に伴い、長崎港における外国蒸気船への燃料として高まった石炭需要を背景に、高島において佐賀藩がグラバーと開発した日本最初の洋式炭坑の坑口。
				端島炭坑	明治中期以降に開削された堅坑で、明治時代後半の高島炭田の主力坑となった。高品位炭を産出し、国内外の石炭需要を賅った。明治末には八幡製鉄所へも原料炭を供給。
		佐賀県	唐津市	旧高取家住宅	官営から三菱期の8年間、高島炭坑の技術を担い、端島炭坑の再興にも従事した九州石炭業界の功労者、高取伊好の住宅。
	三池炭田	福岡県	大牟田市	三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱宮原坑施設	高島炭と並ぶ高品位炭で、安価を武器に海外市場を席卷した三池炭田の主力坑。豊富な埋蔵量を誇り、国内外の石炭需要を賅った。
		熊本県	荒尾市	三井石炭鉱業株式会社三池炭鉱旧万田坑施設	同上
	宇城市			三角旧港（三角西港）施設	三池炭の国外への主要輸出港であった口之津港とともに、国外への輸出港として利用された港。
	筑豊炭田	福岡県	田川市	旧三井田川鉱業所伊田堅坑槽、伊田堅坑第一・第二煙突	筑豊炭田の主力坑。田川炭は高品位炭として海外市場でその銘柄が通用しており、国内外の石炭需要を賅った。炭坑節発祥の地。
				飯塚市	旧伊藤伝右衛門邸
④重工業化への転換	官営八幡製鉄所	福岡県	北九州市	東田第一高炉跡	官営八幡製鉄所の最初の高炉であり、日本の近代化に多大な貢献を果たした初代東田第一高炉の跡地。
				旧本事務所	官営八幡製鉄所創業当初の事務所。八幡製鉄所創業に当たり、高炉、工場群に先立って建設され、事務部門や技術部門を担った。
				旧鍛冶工場	官営八幡製鉄所創業当初の施設で、所内工場の設計、建設及び修理等の重要な役割を担った。
				西田岸壁	官営八幡製鉄所の創業から5年後に建設された繋留施設を伴うコンクリート製の岸壁。物資の輸送に重要な役割を担った。

資料：世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書『九州・山口の近代化産業遺産群 - 非西洋世界における近代化の先駆け』をもとに当研究所で作成。

3. 産業遺産を巡る課題

(1) 産業遺産についての理解、認知度の向上

産業遺産は、通常の観光施設と異なり鉄やレンガでできた単なる古い建造物にしか見えないものが少なくない。このため、これまで産業遺産に対する一般の認知度はどうしても低いものにならざるをえなかったといえよう。それだけに今回経済産業省が提唱しているように複数の産業遺産をテーマ毎にまとめストーリー性を持たせることにより、これまで廃墟にしか見えなかった工場や町並みなどが実は地域の歴史を物語る貴重な財産であることに人々が気付くきっかけともなる。また、ストーリーに重点を置くことで、例えば、今まで陰に隠れていた従業員の苦労や創意工夫など実際にそれぞれの産業を支えてきた人々の生き様までが浮き彫りにされることになる。海外では産業に携わった人々のストーリーをも含めて「産業遺産」として捉えられている場合が多い。今後産業遺産の効果的な活用を図っていくには、こうした遺産のもつ魅力を世間一般により幅広く理解してもらうよう、これまで以上に積極的なPR活動を展開していく必要がある。とくに観光資源として活用する場合には、観光客の遺産に対する関心を少しでも高める工夫が必要となるが、この点、遺産をうまく説明できる産業遺産ガイドの育成なども重要な課題の1つとなる。

(2) 産業遺産の保存

近代石炭産業の発祥の地である長崎県の高島には、東洋一の櫓やぐらをはじめとする石炭産業関連の貴重な建築物が数多く存在していたが全て破壊されてしまった。このように、歴史ある遺産がその価値を理解されないまま日本各地で数多く取り壊されてきたが、貴重な産業遺産をしっかりと保存していくという面からも、遺産の素晴らしさを世間一般に広める活動を展開していかなければならない。

また、産業遺産は江戸末期～明治初期にかけて作られているものが殆どであり、すでに老朽化し損傷の激しいものが少なくない。しかも、その多くが民間所有のため、維持補修など管理面の負担には自ら限界もあろう。地域の貴重な財産を将来にわたって守っていくためには、行政の支援はもちろんのこと、企業や地域社会の協力による基金の創設なども併せ、官民一体となった持続性の高い保存管理体制の確立が求められる。

(3) 産業遺産の次世代への継承

産業遺産の価値を子孫に伝え残していくためには、地域と教育が連携し、遺産を通じてこの産業は当時どのような役割を果たしていたのか、そしてこれが今の日本にどのように受け継がれて

きているのか、といったことを明らかにし、それぞれの遺産が持つ価値や意味を次の世代に正確に引き継いでいくことが重要である。例えば、学校教育の総合学習のなかで先祖の努力と知恵を学ぶ教材として産業遺産を活用すれば、その価値を子供に認識させ、自分達が住んでいる歴史ある地域を誇りに思う心を育てることにもつながっていく。このような活動を通して自分達の誇るべき産業遺産や地域そのものに対する想いが深まり、それに伴って地域社会全体がこれまで以上に遺産の保存に積極的に取り組むといった好循環も期待できる。

いずれにしても産業遺産は観光振興を図るために極めて重要な素材である。それを活用することにより地域の活性化が期待でき、住民はその地域に対し誇りを持つようになる。世界遺産の登録を目指すなどして今後こうした産業遺産を少しでも活かすことができる地域が、他地域に先駆けて浮揚のきっかけをつかむことになるであろう。

(杉本 士郎)